

平成29年11月8日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
 コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 正彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 IR広報部長 (氏名) 古田 純

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日

配当支払開始予定日

平成29年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	611,494	0.8	45,127	20.9	46,116	27.8	31,433	29.2
29年3月期第2四半期	606,789	2.4	37,322	11.7	36,072	1.4	24,321	26.6

(注)包括利益 30年3月期第2四半期 36,673百万円 (206.1%) 29年3月期第2四半期 11,979百万円 (62.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	216.33	
29年3月期第2四半期	165.20	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	918,967	469,651	50.2	3,183.71
29年3月期	883,895	457,190	50.8	3,064.91

(参考)自己資本 30年3月期第2四半期 461,658百万円 29年3月期 448,901百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		45.00		65.00	110.00
30年3月期		57.50			
30年3月期(予想)				57.50	115.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)29年3月期期末配当金の内訳 普通配当45円00銭 創業100周年記念配当20円00銭

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,262,300	1.6	96,500	9.2	97,500	9.7	64,500	6.1	443.88

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注)詳細は、[添付資料]6ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]13ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期2Q	152,683,400 株	29年3月期	152,683,400 株
----------	---------------	--------	---------------

期末自己株式数

30年3月期2Q	7,676,981 株	29年3月期	6,218,500 株
----------	-------------	--------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期2Q	145,308,427 株	29年3月期2Q	147,219,782 株
----------	---------------	----------	---------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	13
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第2四半期 連結累計期間	611,494	45,127	46,116	31,433	216.33
前第2四半期 連結累計期間	606,789	37,322	36,072	24,321	165.20
対前年同期 増減率(%)	0.8	20.9	27.8	29.2	-

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益の増加や雇用情勢の改善が続く中、個人消費にも持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調で推移しました。先行きについては、引き続き成長が期待されるものの、海外経済の動向による国内経済への影響には留意していく必要があります。

こうした中、当社グループは2015 - 2017年度グループ中期経営計画「STEP UP 17」の最終年度を迎え、重点テーマ「成長の加速とさらなる収益性向上」に基づき、「優位事業の強化と新たな成長への挑戦」「環境変化に対応しうる収益力の強化」「グローバル展開の推進」「経営基盤の進化」に向けた取り組みを進めています。

食品セグメントでは、引き続きコア商品の売上成長を図るとともに、生産・物流・販売の効率化とコスト削減に努めることで、着実な成長に向けて取り組んでいます。

医薬品セグメントでは、薬価制度の抜本改革に向けた議論が進み事業の予見性が難しくなる中、感染症治療薬・中枢神経系用薬の重点領域に経営資源を集中し、売上高・利益の最大化に努めています。

当第2四半期連結累計期間の売上高は 6,114億94百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は 451億27百万円（同20.9%増）、経常利益は 461億16百万円（同27.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 314億33百万円（同29.2%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結 損益計算書 計上額
	食品	医薬品	計		
売上高	534,274	77,780	612,055	△560	611,494
営業利益又は損失(△)	40,907	4,354	45,261	△133	45,127

①食品セグメント

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	対前期 増減率(%)
売上高	535,298	534,274	△0.2
営業利益	38,819	40,907	5.4

売上高は前年同期並みとなりました。海外事業が前年同期を大幅に上回り、栄養事業も前年同期を上回りました。発酵デイリー事業、菓子事業は前年同期並みとなりましたが、加工食品事業はアイスクリームの減収などにより、前年同期を下回りました。

営業利益は前年同期を上回りました。主力商品の伸長によりプロダクトミックスの改善が進んだ菓子事業や、海外事業が前年同期を大幅に上回りました。発酵デイリー事業、栄養事業も前年同期を上回りましたが、加工食品事業は減収や原材料のコストアップの影響により前年同期を下回りました。

事業別の売り上げ概況は次のとおりです。

【発酵デイリー事業】 (ヨーグルト、牛乳類、飲料等)

- ・プロバイオティクスは前年同期を上回りました。「明治プロビオヨーグルトR-1」は、継続したコミュニケーション施策と売り場づくりの強化により大幅な伸長を続ける一方、「明治プロビオヨーグルトLG21」は、2016年3月のパッケージリニューアル実施により前年同期が伸長した反動もあり、前年同期を大幅に下回りました。
- ・「明治ブルガリアヨーグルト」は前年同期における大幅な市場拡大の反動により、前年同期を下回りました。
- ・牛乳類は前年同期を上回りました。主力の「明治おいしい牛乳」は市場ニーズの拡大により伸長し、販売エリアを順次拡大している「明治おいしい牛乳(900ml)」も堅調に推移しました。

【加工食品事業】 (チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等)

- ・チーズは、主力の「明治北海道十勝カマンベールチーズ」や「明治北海道十勝スマートチーズ」が好調に推移したことから、前年同期を上回りました。
- ・マーガリンは主力の「コーンソフト」などが好調に推移したことから、前年同期を上回りました。
- ・アイスクリームは、2017年4月からの取引制度変更に加え、夏場の天候不順の影響により前年同期を大幅に下回りました。

【菓子事業】 (チョコレート、グミ、ガム等)

- ・チョコレートは前年同期を上回りました。高カカオチョコレートの持つ健康効果への関心が続く中で、「チョコレート効果」シリーズに代表される健康志向チョコレートは前年同期を大幅に上回りました。また、プレミアムチョコレートの「明治 ザ・チョコレート」も前年同期を大幅に上回りました。
- ・グミは主力ブランドである「果汁グミ」に加えて「ポイフル」などのブランドも好調に推移した結果、前年同期を上回りました。
- ・ガムは市場低迷の影響により前年同期を大幅に下回りました。

【栄養事業】 (スポーツ栄養、粉ミルク、流動食、美容、OTC等)

- ・スポーツ栄養は前年同期を大幅に上回りました。「ザバス」は競技者層に加え、スタイルアップ層への取り組みにより新規ユーザーを獲得したことも寄与し、前年同期を大幅に上回りました。また「ヴァーム」も新商品発売や新規ユーザーの獲得強化が奏功し、前年同期を上回りました。
- ・粉ミルクは出生数の減少などにより前年同期を下回りました。
- ・流動食は前年同期を上回りました。病院用では経管から経口への移行が続く市場背景に加え、新商品の発売が寄与し、市販用もプロモーション活動と新商品の発売により伸長しました。
- ・美容は「アミノコラーゲン」が前年同期を大幅に下回りました。

【その他事業】 (海外、飼料、畜産品、砂糖および糖化穀粉、運送等)

〔海外〕

- ・輸出事業では、粉ミルクは台湾、ベトナム向けが大幅に伸長するとともに、アミノコラーゲンも台湾、香港向けが好調に推移しました。
- ・中国では、菓子事業は主力のチョコレートが上海、広州など主要都市において好調に推移しました。牛乳・ヨーグルト事業は市販用の牛乳や乳酸菌飲料の販売エリアが拡大し、アイスクリーム事業は売り場づくりの強化や新商品発売などにより、各事業が揃って前年同期を大幅に上回りました。
- ・米国では、好調な現地ブランド品に加えて「ハローパンダ」や「チョコルームズ」などの明治ブランド品のチョコスナックも大幅に伸長した結果、前年同期を大幅に上回りました。

〔その他〕

- ・国内子会社は、物流子会社や飼糧子会社の伸長などにより前年同期を上回りました。

②医薬品セグメント

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	対前期 増減率(%)
売上高	72,128	77,780	7.8
営業利益又は損失(△)	△1,313	4,354	-

売上高は前年同期を上回りました。国内医療用医薬品事業は先発医薬品、ジェネリック医薬品ともに伸長し前年同期を上回りましたが、生物産業事業は前年同期を下回りました。

営業利益は前年同期を大幅に上回りました。国内医療用医薬品事業の増収や前年同期に新薬普及費用が発生した反動に加えて、ライセンス契約に基づくマイルストーン収入が寄与しました。

事業別の売り上げ概況は次のとおりです。

【医療用医薬品事業】

〔国内〕

- ・感染症治療薬では、抗菌薬「メイアクト」は、全身性抗菌薬市場における抗菌薬の適正使用促進やジェネリック製品が浸透したことにより前年同期を大幅に下回りました。
- ・中枢神経系用薬では、主力の抗うつ薬「リフレックス」は、国内うつ病患者を対象とした新規エビデンスに基づく普及活動の強化により前年同期を上回りました。統合失調症治療薬「シクレスト」は、2017年6月からの投薬期間制限の解除もあり前年同期を大幅に上回りました。
- ・ジェネリック医薬品は前年同期を大幅に上回りました。抗菌薬「タゾピペ配合静注用 明治」は、市場におけるジェネリック化の加速や追加適応取得もあり、前年同期を大幅に上回りました。
- ・エーザイ株式会社およびF. ホフマン・ラ・ロシュ社との間で締結したライセンス契約に基づき、それぞれマイルストーン収入を計上しました。

〔海外〕

- ・輸出事業では、主力の抗菌薬「メイアクト」の大幅な減売により前年同期を大幅に下回りました。
- ・海外子会社では、インドのメドライク社や中国子会社が前年同期を大幅に上回りました。

【生物産業事業】 (農薬・動物薬)

- ・農薬は、茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」が前年同期を大幅に上回りましたが、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が前年同期を大幅に下回り、全体では前年同期を大幅に下回りました。
- ・動物薬は、家畜用薬は前年同期並みとなりましたが、コンパニオンアニマル用薬が前年同期を大幅に下回った結果、前年同期を下回りました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

[資産]

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、9,189億67百万円となり、前連結会計年度末に比べて350億72百万円増加しました。これは現金及び預金が60億87百万円、その他流動資産が36億45百万円減少した一方、建設仮勘定が125億37百万円、受取手形及び売掛金が108億77百万円、投資有価証券が81億35百万円、原材料及び貯蔵品が54億56百万円、商品及び製品が32億98百万円、建物及び構築物(純額)が31億23百万円増加したことなどによるものです。

[負債]

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、4,493億16百万円となり、前連結会計年度末に比べて226億11百万円増加しました。これは長期借入金が84億64百万円減少した一方、短期借入金が106億14百万円、支払手形及び買掛金が82億84百万円、コマーシャル・ペーパーが80億円、その他流動負債が40億95百万円増加したことなどによるものです。

[純資産]

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、4,696億51百万円となり、前連結会計年度末に比べて124億60百万円増加しました。これは自己株式が138億80百万円増加(純資産としては減少)した一方、利益剰余金が219億13百万円、その他有価証券評価差額金が47億29百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は50.2%(前連結会計年度末は50.8%)となりました。

②キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

区 分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,667	38,700	15,033
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,740	△32,675	△12,935
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,980	△11,026	2,953
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,559	△284	1,275
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△11,613	△5,286	6,327
現金及び現金同等物の期首残高	31,516	22,624	△8,891
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	378	-	△378
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,281	17,338	△2,942

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額が減少したことなどにより、前年同期より150億33百万円収入増の387億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、前年同期より129億35百万円支出増の326億75百万円の支出となりました。

これにより、フリー・キャッシュ・フロー(営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額)は前年同期より20億98百万円収入増の60億25百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期より29億53百万円支出減の110億26百万円の支出となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は173億38百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年5月12日の「平成29年3月期決算短信」で公表しました通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

修正理由は、当第2四半期連結累計期間におきまして、食品セグメントのコスト削減の取り組みが計画以上に進捗したことなどを勘案したことによるものです。

■平成30年3月期 通期連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,261,000	百万円 94,500	百万円 95,000	百万円 61,000	円 銭 414.56
今回修正予想 (B)	1,262,300	96,500	97,500	64,500	443.88
増減額 (B-A)	1,300	2,000	2,500	3,500	
増減率 (%)	0.1	2.1	2.6	5.7	
[ご参考] 前期連結実績 (平成29年3月期通期)	1,242,480	88,395	88,839	60,786	413.11

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,761	18,674
受取手形及び売掛金	183,807	194,684
商品及び製品	88,524	91,823
仕掛品	4,114	4,074
原材料及び貯蔵品	41,596	47,052
その他	35,274	31,629
貸倒引当金	△370	△201
流動資産合計	377,707	387,737
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	301,158	306,803
減価償却累計額	△172,253	△174,775
建物及び構築物 (純額)	128,904	132,028
機械装置及び運搬具	501,254	504,709
減価償却累計額	△372,520	△375,052
機械装置及び運搬具 (純額)	128,734	129,657
工具、器具及び備品	52,383	53,277
減価償却累計額	△42,204	△42,818
工具、器具及び備品 (純額)	10,178	10,458
土地	72,603	73,835
リース資産	3,972	3,051
減価償却累計額	△3,140	△2,295
リース資産 (純額)	832	755
建設仮勘定	24,733	37,270
有形固定資産合計	365,986	384,005
無形固定資産		
のれん	12,840	12,069
その他	13,096	12,371
無形固定資産合計	25,936	24,441
投資その他の資産		
投資有価証券	77,862	85,997
退職給付に係る資産	20,418	21,258
その他	16,092	15,634
貸倒引当金	△107	△109
投資その他の資産合計	114,264	122,782
固定資産合計	506,187	531,229
資産合計	883,895	918,967

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	110,730	119,014
短期借入金	50,574	61,189
1年内償還予定の社債	30,000	20,000
コマーシャル・ペーパー	-	8,000
未払法人税等	17,457	15,445
賞与引当金	10,512	9,957
返品調整引当金	132	70
売上割戻引当金	2,061	2,048
その他	92,722	96,818
流動負債合計	314,191	332,545
固定負債		
社債	-	10,000
長期借入金	48,923	40,458
退職給付に係る負債	48,371	49,010
役員退職慰労引当金	150	138
その他	15,067	17,163
固定負債合計	112,513	116,771
負債合計	426,704	449,316
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	99,762	99,766
利益剰余金	322,856	344,770
自己株式	△16,607	△30,488
株主資本合計	436,011	444,047
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,120	29,850
繰延ヘッジ損益	△5	56
為替換算調整勘定	1,181	△119
退職給付に係る調整累計額	△13,406	△12,176
その他の包括利益累計額合計	12,890	17,611
非支配株主持分	8,289	7,992
純資産合計	457,190	469,651
負債純資産合計	883,895	918,967

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	606,789	611,494
売上原価	386,799	391,893
売上総利益	219,989	219,601
販売費及び一般管理費	182,666	174,473
営業利益	37,322	45,127
営業外収益		
受取利息	61	69
受取配当金	622	664
持分法による投資利益	-	317
為替差益	-	147
その他	704	742
営業外収益合計	1,389	1,942
営業外費用		
支払利息	423	382
持分法による投資損失	168	-
為替差損	1,617	-
その他	430	571
営業外費用合計	2,639	953
経常利益	36,072	46,116
特別利益		
固定資産売却益	5,142	2,672
子会社清算益	-	464
その他	228	252
特別利益合計	5,370	3,390
特別損失		
固定資産廃棄損	1,039	2,039
関係会社株式売却損	-	444
減損損失	51	114
災害による損失	1,295	-
その他	177	61
特別損失合計	2,563	2,659
税金等調整前四半期純利益	38,878	46,847
法人税等	14,515	14,856
四半期純利益	24,363	31,990
非支配株主に帰属する四半期純利益	42	557
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,321	31,433

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	24,363	31,990
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,966	4,733
繰延ヘッジ損益	△153	62
為替換算調整勘定	△8,658	△1,477
退職給付に係る調整額	1,472	1,230
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,078	133
その他の包括利益合計	△12,383	4,682
四半期包括利益	11,979	36,673
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,238	36,154
非支配株主に係る四半期包括利益	△258	518

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	38,878	46,847
減価償却費	22,198	22,401
減損損失	51	114
のれん償却額	784	823
有形固定資産除却損	1,034	2,039
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	360	△159
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△277	△553
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,447	1,578
受取利息及び受取配当金	△684	△734
支払利息	423	382
持分法による投資損益 (△は益)	168	△317
有形固定資産売却損益 (△は益)	△5,128	△2,647
投資有価証券売却損益 (△は益)	16	△246
売上債権の増減額 (△は増加)	7,578	△11,258
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△9,630	△9,341
仕入債務の増減額 (△は減少)	533	9,518
その他	△7,892	△4,968
小計	49,862	53,478
利息及び配当金の受取額	684	741
利息の支払額	△386	△414
法人税等の支払額	△26,493	△15,103
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,667	38,700
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△22,610	△33,929
無形固定資産の取得による支出	△702	△906
有形及び無形固定資産の売却による収入	5,675	3,807
投資不動産の売却による収入	118	1
投資有価証券の取得による支出	△501	△1,007
投資有価証券の売却による収入	51	364
その他	△1,772	△1,006
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,740	△32,675

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	10,349	10,410
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	8,000	8,000
長期借入れによる収入	1,207	3,157
長期借入金の返済による支出	△2,221	△11,581
社債の発行による収入	-	9,955
社債の償還による支出	△20,000	△10,000
自己株式の増減額 (△は増加)	△24	△10,053
配当金の支払額	△9,165	△9,499
非支配株主への配当金の支払額	△127	△92
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△955	△817
その他	△1,042	△506
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,980	△11,026
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,559	△284
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△11,613	△5,286
現金及び現金同等物の期首残高	31,516	22,624
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	378	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,281	17,338

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	535,105	71,683	606,789	-	606,789
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	192	444	637	△637	-
計	535,298	72,128	607,426	△637	606,789
セグメント利益又は損失(△)	38,819	△1,313	37,506	△183	37,322

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額△183百万円には、セグメント間取引消去38百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△222百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	534,038	77,456	611,494	-	611,494
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	236	324	560	△560	-
計	534,274	77,780	612,055	△560	611,494
セグメント利益	40,907	4,354	45,261	△133	45,127

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△133百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△139百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。